

イースターメッセージ

甦るという奇跡を信じること

岩村太郎 (恵泉女学園大学教授、東京 Y W C A 評議員)

復活祭おめでとうございます、と言っても日本ではあまりピンときません。クリスマスおめでとうございます、イースターではあまり聞かれませんが、クリスマスが 12 月 24 日と 25 日に固定されているのに対し、復活祭は「春分の日の次の満月の次の日曜日」と定められている移動祝日のため、今年はイースターはいつ? などと言う会話がクリスチャンの間でも聞かれます、少し分かりづらい祭日と言えるでしょう。

一度死に絶えたものがもう一度復活する、一度途切れた関係が回復して元に戻る、遺失物が出てくる、忘れていたことを急に思い出す、これらは本当に気分のよいものです。最近私は年をとり「忘れていたことさえも忘れていた」という妙なことも経験しています、あなたにもお心当たりがありませんか。さらに人間には様々な願望とか欲望があります、一歳でも若く見せたい、少しでもやせて見せたい、嘘でも上品に見せたい、しかしこれらはよく考えると「現実とイメージが合わない」ことの結果です、自分勝手な欲望と言えるでしょう。けれどもこのあまりに人間的な欲望に突き動かされて努力するならば、それはそれで大変結構なことかもしれません、目標を持って頑張ることは大切です。

私の大学の同僚の女性です「私は聖書の言葉も好きだし、キリスト教も大好きで大部分に賛成なんだけれど、どうしても復活の意味が分からないのよ、だから洗礼受けられないの」と、雑談めいているようですが本質的の神学論争をなさる方がいます。キリストが病人を治した、水の上を歩いた、そして極め付けがキリストの死人の中からの復活劇です。「奇跡は、奇跡的に起こるものではない」南北会談が初めて成立した時の韓国大統領の言葉を思い出しました、つまり奇跡が起こるためには、その前に長い粘り強い苦労があったことを思い出させるよい言葉です、今ふと心に浮かびました。

奇跡とは、いわゆる科学的には証明できない出来事とか科学的根拠がないことを指す総称です。しかしここで一つの単純な質問をします、「あなたは日常の生活を、本当に科学的根拠に基づいて送っていますか？」

と。ここで言う科学とは、実験を3回やって3回とも同じ結論が出るものと理解してください。一度皆の前で「何々細胞は、あります」と言ったら、それは科学的な意味で存在すると言ったのであって、つまり誰が同じ実験をしてもその細胞が存在しなければなりません、科学的とはそういうことです。

奇跡という非科学的事実に対し、もしあなたが科学および科学的思考が全能であると考えたら、キリストの復活を信ずることは難しいでしょう、というか無理です。宗教には多かれ少なかれ非合理的な心情が前提になっているからです。私は科学はかなりの程に有効なものであることを固く信ずる現代人ですが、決して全能だとは思っていません、そもそも自分勝手な自分の思いを科学的には証明できないことをよく知っているからです。私は単純にキリストの^{よみがえ}甦りを信じます、希望が生まれるからです。